

質問1. 防災アプリのマップについて、雲の動きと現地の空についての違いを知りたい。

気象庁ホームページでは、降水の状況を「雨雲の動き」というサイトで確認することができます（下記資料をご参照ください）。

この「雨雲の動き」は、気象レーダーにより分布を割り出しているもので、上空の高いところの降水（地上まで届かない雨）を観測する場合もございます。

このような場合には、雨が降っていないのに、マップ上では雨が降っているように表現される場合がございます。

「急な大雨、雷、竜巻」：「自ら判断」の材料

「雨雲の動き 気象庁」で検索



「雨雲の動き」 「雨雲の動き」
+ 雷の状況 「雷活動度」 「竜巻発生確度」

いつでも見られるように、ブックマーク！ 70

質問2. 昭和57年の大宇陀アメダスの話の中で、被災資料がないのが不思議。
宇陀市の中でも特に大宇陀の災害が甚大であったことを覚えている。
一時は大宇陀エリア全体が孤立したことを覚えている。
気象庁に情報提供いただきたい。

下記資料にお示ししましたように昭和57年(1982年)豪雨の奈良県内の被害データは確認できているのですが、当時の宇陀市(当時は榛原町、大宇陀町、菟田野町、室生村)の個別データは整理しておらず、気象庁のデータベースにもございません。
気象庁では、2008年(平成20年)より市町村別に注意報や警報の発表を開始しました。2008年以前は、奈良県を北西部、北東部、五條・北部吉野、南西部、南東部の5つの区分に別けて発表していました。

現在当台では県内の39の市町村に対し各市町村別の注意報や警報を判定するための基準値を市町村ごとに設定しています。

この市町別の基準値は、1991年以降の降雨データや災害データから導き出しています。このため、1990年以前の市町村別の災害データの整理は精査できていないのが実情です。とはいえ、過去の気象データやその時の災害の規模を知ることは、避難を判断するうえでは参考になる大切なことだと考えていますので市内や町内の図書館などで是非ともお調べいただきたいという思いで、今回のお話の中で取り上げさせていただいた次第です。

⑤ 昭和57年大和川大水害の被害状況

- 県下各地では昭和34年9月の「伊勢湾台風」以来の大災害。
- 奈良県では、災害救助法が適用。
- 奈良県での被害
 - ・死者 14名
 - ・行方不明者 2名
 - ・住家全壊 144棟
 - ・床上 3413棟
 - ・床下浸水 8985棟
- 4日未明、西吉野村(現在の五條市)和田で大規模な地滑りがあり、土砂が丹生川をせき止めたため、土砂ダムが発生し、家屋の浸水などの甚大な災害を生じた。